

平成28年度 南丹市立美山中学校 学校経営のまとめ

学校教育目標	学校の現状分析	学校経営方針(中期経営目標)
<p>「ふるさとを愛し 夢や希望に向かって自らを高める 美山っ子の育成」 - 人権の尊重を基盤として、心豊かで、たくましく生きる生徒の育成を図る -</p> <p>《目指す生徒像》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学ぶ生徒の育成 (知) 【よく考える】 ○ 思いやりのある生徒の育成 (徳) 【よく思う】 ○ 心身ともに健康で勤労と責任を重んじる生徒の育成 (体) 【よく活動する】 	<p>(1) 生徒は純朴で、全般的に生活、学習ともに真面目に努力する。落ち着いた学校生活を送ることができている。基礎・基本の徹底を図るとともに、主体的に学習に取り組む意欲や積極性を育てる取組を進めていかなければならない。</p> <p>(2) 伝統的に言語力の向上に力を入れているが、各教科・分掌・学年等と連携して取り組むなどの工夫や見直しの必要がある。</p> <p>(3) 学校は地域との結びつきが強く、保護者や地域からの協力を得られるが期待も大きく、それに応える努力が必要である。</p>	<p>京都府教育委員会「京都府教育振興プラン」「学校教育の重点」「社会教育の推進のために」及び南丹市教育委員委「学校教育指導の指針」に基づき、公教育として地域の期待に応えるため、「特色ある学校づくり」に努める。</p> <p>(1) 校長を主導とした指導体制のもと、基礎・基本の確実な定着と考える力の育成や個性を生かす教育を推進するため、教職員一人一人が意欲とやる気を持って積極的に参画し、組織(チーム)として地域社会の信頼に応える教育を積極的に推進する。</p> <p>(2) 生徒一人一人のよさを伸ばすとともに、望ましい生徒集団の育成に努める。</p> <p>(3) 教職員研修を充実させ、教職員一人一人が、豊かな人間性、広い社会性及び高い専門性を基盤とした実践的指導力の向上を図る教師集団づくりを目指す。</p> <p>(4) 家庭、地域社会との連携のもと、地域とともに歩む「開かれた学校づくり」を積極的に推進する。</p>

学校経営の重点(短期経営計画)	重点別評価	成果と課題	総合評価
<p>1 学習面</p> <p>(1) 学習規律を確立し、基礎・基本を確実に定着させるとともに、全ての学校教育を通して主体的に学ぶ意欲や積極性を育成する。</p> <p>(2) 家庭と連携を取りながら、各教科での指導や取組を通して、自学自習の習慣化を図る。</p> <p>(3) すべての教科・取組等で言語力の育成を図り、学力向上につなげる。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・計画的に授業研究会や研修会を持ち、他教科・小学校からの学びを授業改善に活かした。また、学力診断テスト等の結果分析を全教職員で共有し、個々の生徒へ面談等を通して対応できた。次期学習指導要領を踏まえ、豊かな深い学びにつながるよう指導力の向上を図る。</p> <p>・全教職員が小論文・作文指導の取組を通して、各賞に入賞するなど生徒の言語力を伸ばす取組の成果が見られた。今までの指導体制や手法などの確かさを実感するとともにふり返ることができた。</p>	B
<p>2 生活面</p> <p>(1) 基本的な生活習慣の確立を図り、ともに学び合う学習集団の育成を通して、生徒の学ぶ力と前向きな意識を育てる。</p> <p>(2) 日々の教育相談活動や保護者との連携を図り、内面理解に努める。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・生徒会の取組に連動させて、自学自習を目指した自主学習の取組をさらに進めることができた。さらに、質の高い家庭学習の取組ができるよう家庭とも連携して推進・啓発するとともに、「わかりやすい授業」ができるよう工夫改善を図る。</p> <p>・QUテストの活用や教育相談、生徒・保護者アンケートを通して生徒の内面理解ときめ細かな指導をすることができた。生徒や保護者から信頼されるよう自己の指導力の向上を目指していく。特に、人間関係トラブルの解消やいじめの未然防止に関して生徒・集団への指導、家庭や関係機関との連携、小学校との連携を密にする。</p>	
<p>3 健康面</p> <p>(1) 生命の大切さや、人への思いやりを育み自分の生き方を考えさせる。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣を確立と、健康でたくましい心身を育成する。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・学級・生徒会活動等を通して、一人一人の成長を支え可能性を伸ばすとともに、質の高い集団のづくりができる学級経営力を身につけた教職員を育てる。</p>	
<p>4 地域連携・小中連携</p> <p>(1) 地域の「人・もの・こと」を活かして学社協働を図るとともに、学校だより・ホームページなどを活用して積極的に情報を発信し、地域に開かれた安心・安全な学校を創る。</p> <p>(2) 保・小・中の縦の効果的な連携と滑らかな接続を大切にした実践を一層推進する。</p>	A	<p>・地域の教育資源を効果的に活用して、総合的な学習の時間の取組や土曜活用に取り組むことができた。今後、様々な機会や学校だより・HP等を通して、地域に情報を発信し、地域学校協働本部事業の取組を最大限活用する。各地域振興会とも連携し地域に貢献できる、信頼される安心・安全な学校づくりを目指す。</p>	

◎評価については、「A・B・C・D」の4段階（A：十分な成果が見られた、B：成果が見られた、C：やや課題が見られる、D：課題が大きい）

[平成28年度 成果と課題]

- 計画的に授業研究会や研修会を持ち、他教科・小学校からの学びを授業改善に活かした。また、学力診断テスト等の結果分析を全教職員で共有し、個々の生徒へ面談等を通して対応できた。次期学習指導要領を踏まえ、豊かな深い学びにつながるよう指導力の向上を図る。
- 全教職員が小論文・作文指導の取組を通して、各賞に入賞するなど生徒の言語力を伸ばす取組の成果が見られた。今までの指導体制や手法などの確かさを実感するとともにふり返ることができた。
- 生徒会の取組と連動させて、自学自習を目指した自主学習の取組をさらに進めることができた。さらに、質の高い家庭学習の取組ができるよう家庭とも連携して推進・啓発するとともに、「わかりやすい授業」ができるよう工夫改善を図る。
- QUテストの活用や教育相談、生徒・保護者アンケートを通して生徒の内面理解ときめ細かな指導をすることができた。生徒や保護者から信頼されるよう自己の指導力の向上を目指していく。特に、不登校生徒を出さないよう生徒・集団への指導、家庭や関係機関との連携、小学校との連携を密にする。
- 学級・生徒会活動等を通して、一人一人の成長を支え可能性を伸ばすとともに、質の高い集団のづくりができる学級経営力を身につけた教職員を育てる。
- 地域の教育資源を効果的に活用して、総合的な学習の時間の取組や土曜活用に取り組むことができた。今後、様々な機会や学校だより・HP等を通して、地域に情報を発信し、地域学校協働本部事業の取組を最大限活用する。各地域振興会とも連携し地域に貢献できる、信頼される安心・安全な学校づくりを目指す。

「京都府教育振興プラン」をもとに、
「人権の尊重を基盤として、心豊かで、たくましく生きる生徒の育成」を教育目標とした。

この教育目標を達成するために、目指す生徒像として、
「主体的に学ぶ生徒の育成（よく考える）」
「思いやりのある生徒の育成（よく思う）」
「心身ともに健康で勤労と責任を重んじる生徒の育成（よく活動する）」の3つをあげている。

美山中学校のこれまでの取組と地域の教育力・人材を生かした取組をさらに充実させることにより、地域・保護者との協働により、ともに成長できる・信頼される・特色ある学校づくりを目指す。

(1) よく考える（学力の育成）～よく考える、いつも考える、深く考える～
学力の基盤として全教育課程で言語力の育成を図る。また、個々の生徒にきめ細かい指導と授業改善に取り組み、わかる」「できる」を生徒が実感できる、生徒の学習意欲を引き出し、ともに学び合える授業を目指す。自ら学び自らを高め、未来を展望する力をもった生徒を育成する。

(作文・小論文指導、全校発表会（アンビシャスタイム）、ICT〔情報機器〕を活用した授業、全教職員での研究授業、校内研修、自主学習の取組 等)

(2) よく思う（心の育成）～よく思う、いつも思う、深く思う、人を思う～
人権尊重を基盤として、人に思いやりを持ち、人やふるさと・美山を大切にすることをもち、自信と誇りをもって自分の将来を切り拓いていく生徒を育成する。

(地域人材・教材を活用した「美山学」の取組、将来の夢・目標を目指して努力できる生徒を育成するキャリア教育、郷土を愛し思いやりのある生徒の育成 等)

(3) よく活動する（意欲ある生徒の育成）～よく活動する 良い活動をする 自ら進んで活動する～
少人数であることを生かし、お互いの存在を認め合い、お互いが切磋琢磨して個人も集団も成長できる生徒の育成する。体験等の学習を通して、ふるさとの自然・人・社会とつながり、共生できる力を育む。

(地域にの良さを知り自信と誇りを持つ、様々なコンクールに参加、総合的な学習の時間の充実、ボランティア活動や特別

(4) 学校内外での研修を充実させ、強い使命感と自己目標をもって、指導力・授業力を向上させたいと考える教師集団をつくり、保護者・地域からより一層信頼される、安心・安全な、地域が誇れる学校を目指す。

[平成28年度の成果と課題] - 学校経営の到達点に対する思い

①個々の教師の指導力・授業力の向上 それによって学力を向上・充実させていく - 「学力の美山」を目指す
どの子にもわかりやすい授業 (個別に支援の必要な生徒に気づき、その子にあった配慮ができる)

- ・計画的に授業研究会や研修会を持ち、他教科・小学校からの学びを授業改善に活かした。また、学力診断テスト等の結果分析を全教職員で共有し、個々の生徒へ面談等を通して対応できた。次期学習指導要領を踏まえ、豊かな深い学びにつながるよう指導力の向上を図る。
- ・全教職員が小論文・作文指導の取組を通して、各賞に入賞するなど生徒の言語力を伸ばす取組の成果が見られた。今までの指導体制や手法などの確かさを実感するとともにふり返ることができた。
- ・生徒会の取組と連動させて、自学自習を目指した自主学習の取組をさらに進めることができた。さらに、質の高い家庭学習の取組ができるよう家庭とも連携して推進・啓発するとともに、「わかりやすい授業」ができるよう工夫改善を図る。

②生徒との関係づくり (家庭連携・SC連携・関係機関との連携、不登校生との関係づくり)
不登校生徒を出さないよう個々の生徒・集団への指導、家庭や関係機関との連携、特に小学校と密に連携
集団づくり・集団の質の向上 (リーダーの育成、規範意識 (あいさつ)、いじめ未然防止) + 学級経営力の向上

- ・QUテストの活用や教育相談、生徒・保護者アンケートを通して生徒の内面理解ときめ細かな指導をすることができた。生徒や保護者から信頼されるよう自己の指導力の向上を目指していく。特に、不登校生徒を出さないよう生徒・集団への指導、家庭や関係機関との連携、小学校との連携を密にする。
- ・学級・生徒会活動等を通して、一人一人の成長を支え可能性を伸ばすとともに、質の高い集団のづくりができる学級経営力を身につけた教職員を育てる。

③地域全体の力をも活用して、学校の活性化を目指す
総合的な学習の時間の取組のさらなる充実 - 「美山学」ふるさとを自慢できる、ふるさとを語れる
学校と地域との双方向の取組の推進 (学校が地域に貢献)
熟議 (美山の子どもの未来像) - 小中の連携・地域と連携

- ・地域の教育資源を効果的に活用して、総合的な学習の時間の取組や土曜活用に取り組むことができた。今後、様々な機会や学校だより・HP等を通して、地域に情報を発信し、地域学校協働本部事業の取組を最大限活用する。各地域振興会とも連携し地域に貢献できる、信頼される安心・安全な学校づくりを目指す。

【教頭に関わって】成長と課題

- 保護者・地域との連携が丁寧にできている。
- 「美山ならではの感覚」でもって対応している。
→地域や保護者の熱い期待や要望が学校の文化や伝統・校風を守っているという自覚
- 若手を育てよう意識したアドバイスができている。(心情的な面で)
- 教職員とのコミュニケーション
- 緻密に、見通しをもって、迅速に(行事予定 2ヶ月→3ヶ月)
- 自己評価に関わって、頑張っているところをしっかりと評価、課題点についても指摘

[成長した教職員]

- 鈴木 進路指導 古谷対応 学年で協力連携
- 松本 生徒との結びつき 教師とのコミュニケーション・担任のモデル像
- 桃井 生徒指導 基本的な部分をぶれずに指導（教職員・生徒） 改善意識をもって指導 教科に教科にこだわって指導
- 小野 教務 丁寧な仕事（意図を共有する） 周りに木を使わせない対応
- 石井 学年チームとして動きを作る
- 神先 教科指導
- 柴 学級経営
- 北門 健康管理 特別支援コーディネーター
- 笠原 ICT活用
- 塩内 小中連携
- 新川 適切な予算執行 見える決算
- 才村 健康管理 生徒対応
- 渡邊 信頼関係 古谷
- 栃下 丁寧な指導・準備・対応

[自己評価を変えたことで何か変化があれば]

- 自校の取組の明確化が図れた。思い切って項目を絞ることで、学校が目指している方向性や解決すべき課題が全教職員で共有され、エネルギーを集中して学校全体で取組を行うことが可能になる。
- 学校評価を「評価のための評価」ではなく、「改善のための評価」にするためには、重点的な取組と取組目標を具体的に設定することが重要です。検証・改善のためには、達成度合いを抽象的に評価するのではなく、重点的取組・指標の妥当性を評価して、次の取組に繋げることが大切です。
- 「知／特／体」のバランスのとれた生徒の育成という点では、弱いところがあるという点もある。
数年に一度は、網羅的な評価も必要
- 無理なく 無駄なく 前向きに
- R（リサーチ）V（ビジョン）・PDCA。

[人材育成という観点から]

組織マネジメント カリキュラムマネジメント 教務主任・研究主任 リスクマネジメント 生徒指導主任

- 授業力向上－授業参観（校内巡回）、センター研修、校内研修・研究授業（南船中教研の授業研究会）
- 役割分担－分掌担当として校務分掌のリーダーとして働かせる やらせてみる 任せてみる
- 報連相の徹底－学校内の情報共有（職場コミュニティ）、ベクトルの確認、進捗状況の把握、指導・助言
- 教員の自己啓発・自己研鑽－自己啓発が促進されるような教員モデルと出会う機会

[自分]

○自己研鑽－自ら学び続ける教師像、率先垂範

○自己目標－70% 授業参観を通して、互いに学び合う・認め合う関係づくりの構築
言葉に出して意思疎通（わかっているつもりで対応が、十分伝わらず）
情報の共有（自分のこととして捉えることの弱さ、何ができるのか、何をを目指すのか）

子どもたちに「この学校で学びたい」と思ってもらえるかを常に問い続ける姿勢が、美山ブランドづくりにつながり、教育がさらに充実すると思います。「美山ならでは」の方法で地域の資源を活用して、学校を活性化させていくことが大切です。そして、あたり前のことをあたり前にやり続けることが、本来の役割であることも忘れてはならないことです。この姿勢が学校としての強みを生み出し、ひいては揺るぎないものにつながると考えています。

子どもの将来の姿を共有しながら、学校と保護者・地域の方々がそれぞれの役割を果たし、手を携えて歩いていくことがこれまで以上に大切だと思っています。